

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社 ライフ케어アイ		
事業所名	グループホーム らいふ敬愛		
所在地	北海道札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えない住まい造りを理念に掲げ、職員一人ひとりが利用者様と「共に暮らす」という認識を常に持ってあり、外出行事や日常生活にも活かされています。複数事業所連携事業に参加し、他のグループホームとの関わりも増えて行事に誘って頂いたり、合同研修会や作品展の出品を通して横の繋がりを大切にしています。  
ご家族とのコミュニケーションを大切にしており、日頃の様子を運営者・管理者だけでなく職員も積極的にコミュニケーションを取りながら、月1回のお便りや認知症に対する理解を発信してホームでの取り組みを理解して頂き、避難訓練や行事にもご協力頂いています。  
盆踊りなどの地域行事や運営推進会議・避難訓練を通して地域に存在するホーム造りを目指し、ご町内の方々には利用者様や職員にも気軽に声を掛けて下さり、ホームの花壇作り・果物や野菜のお裾分け・家庭で不要になった食器を頂いたりご近所付き合いも盛んで、ホームの大切な応援者であると感謝しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502165&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502165&amp;SCD=320</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の理念として、利用者はもとより職員と家族を大切にすることに強い想いを抱いており、そのため職員のモラルが高く、明るく活気のある生活が実現している。  
職員は利用者を退屈させることなく、放置したり寝込ませたりすることがないようアクティビティーやレクリエーション活動に積極的に取り組んでおり、認知機能の維持、あるいは回復に効果を挙げている。  
「複数事業連携事業」に参加して市内4区と同業者と連携し、職員の合同研修会、内部研修講師の相互派遣、求人や入職希望者へのガイダンスの共同実施、利用者の合同作品展などに取り組み、相互研鑽と協力でレベルアップを図っている。  
地域住民との協力関係が良好に築かれており、運営推進会議を軸に、町内会や地域住民による避難訓練への参加、災害時の同時通報システムへの参加、避難場所の提供、野菜や日用品の寄贈などの協力を得ており、ホーム側からは祭りなどの行事への参加、利用者による地域内独居老人訪問など、多岐に渡る結び付きが形成されている。  
外出支援は職員が交互に手分けしながら、買い物、外食、友人宅訪問、イチゴ狩り、工場見学などとき細かに個人個人の要望に沿った対応をしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等でホームの理念を確認しあい、名札の裏面に記載することで理念を忘れないよう心がけている	自由と尊厳、楽しく笑顔で、安全安心、生きがい、および地域交流を内容として掲げ、ホーム内掲示、職員の名札裏への表示、毎月のミーティングで読み上げるなどの形で浸透と実践化を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と独居老人宅へ訪問し交流を図ったり、町内会に加入し、盆踊りやお祭りなどの行事を通して利用者が地域との関わりが出来る様支援している	町内会に加入して各種行事に参加し、利用者と共に地域の独居老人を訪問し、交流を図っている。町内会や地域住民により、避難訓練への参加、避難場所の提供、災害時の通報システムへの登録などの協力を得ている。その他、地域との交流は緊密である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の理解や支援の状況を伝え地域に発信したり、地域とホーム共同の防災マニュアルの作成に向けて話し合い中である		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価報告や災害対策・年間行事などの話し合いを通してホームでの現状報告と意見交換を行なっている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定例で開かれており、ホームの行事の状況、災害対策、ごみの問題などについて活発な意見が交わされ、地域協力の要の役割を果たしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携といえる程ではないが、不明な点があれば役所を訪問したり電話連絡にて相談している。また、複数事業所連携の研修会に出席して頂き、取り組みを理解して頂ける様努めている	必要に応じて随時役所を訪問し、あるいは電話で相談するなど協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施し身体拘束防止の意義を確認している。また、事務所内に身体拘束に該当する具体的な行為を掲げ日々確認出来る状況にある	毎月の勉強会のテーマに年1回は組み入れて研修し、身体拘束回避の認識を高めている。また、注意事項を掲示していつでも見えるようになっている。医師から介護衣の指示があった時も職員一同で問題点を検討し、介護の工夫と努力でこれを回避した。日中玄関は施錠せず、職員の見守りで安全を確保している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止教育システムを活用し研修会を実施。具体例を挙げて新人職員にも理解しやすいような研修会実施に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他のユニットに成年後見制度を利用している利用者様があり、外部研修において知識や理解を深めていることもあり、今後内部研修において実践していきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書・重要事項説明書・運営既定を十分に説明しを同意を頂いている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、ご家族の面会時には内容によって個別に事務所等で場所を変えて話しやすい環境作りに努めている	家族とのコミュニケーションを重視しており、勉強会のテーマにも取り上げている。話しやすい環境作りに務め、こまめに報告し、意向を聞き出すように日頃努めている。	家族は職員の前では言いにくいこともあることを考慮して、家族アンケートなどを検討してみることも期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等での業務改善・意見交換、代表者・管理者と職員によるヒヤリングを随時行なっている	日常の業務の中で、あるいはミーティングの機会に運営に関する職員の意見や提案を汲み上げている。備品類の調達、施設内環境整備、利用者の受け入れなどについても職員の意見が反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金を申請し、人事考課制度を設けて職員個々の努力を評価している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修マニュアルを作成し、法人の理念や認知症の理解について周知している。職員の意見を取り入れて内部研修計画を作成し、日常の業務に活かせる研修会を実施出来る様努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業の参加を通し、合同研修会や他施設の行事に参加させて頂き、ボランティアさんの紹介や行事の企画に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の施設見学からご本人に直接お会いしてコミュニケーションを図り、関係作りに努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学時・契約時において、利用者を支える為にご家族とホームとしてのあり方について十分話し合いを行なっている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にはグループホームでのケアが必要か十分話し合い、必要に応じて他のサービス事業者を情報提供している</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームの名称にある「敬愛」の精神に基づき、人生の先輩を敬い、お互いに支え合う関係を築けるよう努めている</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時には日常の様子を理解して頂ける様積極的にコミュニケーションを取って利用者の生活が向上出来る様ご家族と情報交換を行なっている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族にも協力頂き利用者の友人宅への訪問や、面会・電話連絡の支援に努めている</p>	<p>友人宅への訪問、友人の来訪、友人と一緒にの外出、仲間の会合への参加、墓参り、外泊などについて、家族の協力も得ながら本人の希望に沿い、馴染みの関係の継続に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>行事や日常生活において他ユニットに訪問して利用者同士の交流を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への転院等で退去された場合はお見舞いに行ったり、他界された場合はご自宅へ訪問し、ご家族と関係を築いている		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録や連絡ノートで情報を把握して表出しやすい環境作りに努めているが、意思疎通困難な利用者様はミーティング等で利用者の立場になって考えて検討し思いを汲み取るように努めている	常時、利用者の意向の把握に努めており、そのために過去の経歴や好み、習慣などについて家族から情報を得ている。意思疎通困難な利用者については表情などから読み取ると同時に、職員間で情報交換して理解を深めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様宅へ訪問し馴染みの暮らし方について把握し、ご家族にセンター方式を記入して頂いて生活歴を把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録で情報共有を行ないながら利用者様個々の生活パターンの把握に努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを実施し、ケアプラン更新前にはご家族に要望をお聞きしながら、各担当者として介護支援専門員による話し合いとミーティングにおいて他の職員からの意見を出し合いながら作成している	3ヶ月毎に計画更新を行っている。モニタリング、家族の意向聴取、本人意向や医療事情を含む介護記録をもとに、担当職員と計画作成担当者間、およびミーティングで話し合いながら計画を作成し、管理者、職員、家族の確認を得て実行計画に移される。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気になる事や気づいた事を記入し、継続が必要な場合はケアプランに反映し統一している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な病院受診や外出等ご家族と相談しながら柔軟に対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域ボランティアの依頼や行事の情報を得ている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前まで受診していた医療機関を希望される方には継続出来る様な支援を行い、協力医療機関との連携により24時間対応の医療体制である	かかりつけ医は本人・家族の意向に沿って決められる。協力医は毎週往診に来訪し、24時間対応の医療連携体制を取っている。協力医以外を受診する際は医師との間で手紙や電話で情報交換する。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得し、看護職員を配置して主治医と連携をとりながら健康管理を行なっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族と共に管理者が同行し、入院先の医師や看護師に情報を提供。入院中も面会やご家族と連絡を取り合い情報収集を行ないながら早期退院に向けて話し合いを行なっている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成。看護職員による看取りの勉強会を開催し、看取りに対する職員の不安を軽減出来る様な話し合いも行なわれた	入居の段階で家族・施設・医療機関の間で重度化した時の対応と看取りの指針について確認書を交わしている。看護職員を中心に職員は看取りの学習を行っており、マニュアルも整備されている。医師の判断により、改めて関係者が話し合って看取りの介護に入る。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成。事業所内において地域住民と合同で普通救命講習会を開催している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加の避難訓練を年2回実施。搬送実務の効果測定を3ヶ月毎に実施している。スプリンクラーも設置しており、自動火災通報装置との連動で地域住民宅への登録も行なっている	火災想定避難訓練を年2回実施し、内1回は消防署の直接指導を受け、夜間想定も行っている。訓練には町内会始め地域の住民も参加する。地域住民宅に通報連絡システムへの参加と避難場所提供の協力を得ている。さらに搬送実務訓練を3ヶ月毎に行っている。	想定災害は主に火災で、地震については机上訓練までであるが、地震を想定した倒壊防止対策、避難の実地訓練も実施するよう期待したい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時などは個人名で言わないよう配慮したり、言葉かけにもプライバシーに配慮している	利用者本人が気になることや言われて困ることを口に出さないなど、人格を尊重した言葉かけについてミーティングで話し合われている。個人名が特定できる表現について留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた説明や声掛けを心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで生活してきた習慣を大切に、職員の押し付けとならない様支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の提供や洋服は自分で選んで頂けるよう支援している。女性の利用者様には化粧療法の実施を予定している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食生活支援マニュアルを作成。栄養のバランスに考慮しながら季節に合わせた献立作りや献立作成時に利用者様に希望を伺ったり、料理作成に関わって頂く事で食べる事に興味を持って頂けるよう支援している	献立から後片付けまで場面作りの工夫を凝らしながら利用者の持っている力を引き出し、できることを積極的にしてもらって支援を行っている。お弁当持参の外出や庭先での食事、外食などをふんだんに取り入れ、職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や看護師に相談しながら入居者に応じた食事量や水分摂取量を検討し、摂取しやすい様好みの物を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。嚥下体操を行い機能維持に努めたり、必要に応じて歯科受診や訪問歯科を勧めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にて排泄パターンを把握しながら声掛け・誘導を行なっている	排泄チェックシートを用いて利用者全員の排泄パターンの把握に努め、本人の表出する行動も見極めながらトイレでの排泄を支援している。汚染時は、ボトルシャワーやウオッシュレット、清拭で衛生面や気持ちの良い対応に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や外出を増やす事で体を動かす機会を多くしたり、水分量や食事量の検討・乳製品摂取により下剤に頼らないよう努めている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、希望があれば毎日入れる様支援している。拒否が見られる利用者様の対応にはスタッフ間の情報共有をして出来るだけ入って頂ける様心がけている	週に2回、月曜日と木曜日の午前から午後にかけての入浴の設定であるが、利用者の状態や状況により柔軟に対応している。拒否時は対応職員を代えて入浴の声かけをし、入浴が困難な場合は、清拭やシャワー浴、足浴を実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様、日中の活動性を増やしたり、昼寝の習慣がある入居者は長時間とならない様配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援マニュアルを作成。薬剤情報提供書がいつでも確認出来るようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌の支援や利用者様の特技にあわせ俳句や書道を披露するスペースの確保や踊りの好きな利用者様はフラダンスを職員と一緒に踊り気分転換に繋がっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に合わせ近所のコンビニやスーパーへの買い物支援や外食を支援している。ご家族にも協力頂いて自宅への外泊やご家族との外食も積極的に勧めている	果物狩りや工場見学、日帰り温泉など全体での行事外出の他、職員と利用者が一対一で出かける個別外出にも力を注いでいる。日常的な散歩で近隣に出かけ、夏場以外でもスーパーに買い物に出かけるなど、できるだけ外出の機会を設けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主にホームで金銭管理を行なっているが、ご家族と相談し買い物時は利用者様に合わせて少額の自己管理を行なって頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により支援したり、状況に応じて利用者様にアプローチしている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢花を各所に設置しゆったりとした空間作りを心がけたり、利用者様手作りのカレンダーで季節を感じて頂ける様努めている。各居室には換気扇が備え付けられ空調にも配慮している	共用空間は中庭を中心に回廊式のゆったりとした造りで、一息つけるベンチを要所に施し、トイレ、洗面台、玄関などには身体機能に配慮した設備がある。リビングダイニングスペースに繋がる和室の空間には花々が置かれ、また、壁面には利用者手作りの季節感を盛り込んだカレンダーや思い出の写真が飾られ、温かみを感じさせる工夫が見られる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や施設内の各場所にベンチを設置しており、くつろげるスペースがある		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使用してきた家具を持ち込んで頂いたり、ご家族と相談しながら思い出の写真を飾り安心できる居室作りを心がけている	利用開始前に使用していた机やタンス、収納具などや思い出の品々、仏壇などの大切にしている物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう設えている。裁縫や読書などの趣味の支援は、家族の協力を得ながら落ち着いて楽しめるよう環境を整えている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰介護にならない様、利用者様の出来る事・出来ないことを職員間で十分話し合いながら対応している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社 ライフケアアイ		
事業所名	グループホーム らいふ敬愛		
所在地	北海道札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えない住まい造りを理念に掲げ、職員一人ひとりが利用者様と「共に暮らす」という認識を常に持ってあり、外出行事や日常生活にも活かされています。複数事業所連携事業に参加し、他のグループホームとの関わりも増えて行事に誘って頂いたり、合同研修会や作品展の出品を通して横の繋がりを大切にしています。  
ご家族とのコミュニケーションを大切にしており、日頃の様子を運営者・管理者だけでなく職員も積極的にコミュニケーションを取りながら、月1回のお便りや認知症に対する理解を発信してホームでの取り組みを理解して頂き、避難訓練や行事にもご協力頂いています。  
盆踊りなどの地域行事や運営推進会議・避難訓練を通して地域に存在するホーム造りを目指し、ご町内の方々には利用者様や職員にも気軽に声を掛けて下さり、ホームの花壇作り・果物や野菜のお裾分け・家庭で不要になった食器を頂いたりご近所付き合いも盛んで、ホームの大切な応援者であると感じております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502165&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502165&amp;SCD=320</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等でホームの理念を確認しあい、名札の裏面に記載することで理念を忘れないよう心がけている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と独居老人宅へ訪問し交流を図ったり、町内会に加入し、盆踊りやお祭りなどの行事を通して利用者が地域との関わりが出来る様支援している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の理解や支援の状況を伝え地域に発信したり、地域とホーム共同の防災マニュアルの作成に向けて話し合い中である		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価報告や災害対策・年間行事などの話し合いを通しホームでの現状報告と意見交換を行なっている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携といえる程ではないが、不明な点があれば役所を訪問したり電話連絡にて相談している。また、複数事業所連携の研修会に出席して頂き、取り組みを理解して頂ける様努めている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き施錠はしていないが、主治医の指示により介護服着用の必要性がある利用者様が居たが、身体拘束についての確認・ご家族への同意・介護服廃止へ繋げた経験を通し、直接取り組んだ事で改めて身体拘束についての理解が出来た		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止教育システムを活用し研修会を実施。具体例を挙げて新人職員にも理解しやすいような研修会実施に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に成年後見人制度を利用している利用者様あり、担当する司法書士さんとの関わりを通して権利擁護の重要性を理解している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書・重要事項説明書・運営既定を十分に説明しを同意を頂いている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、ご家族の面会時には内容によって個別に事務所等で場所を変えて話しやすい環境作りに努めている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等での業務改善・意見交換、代表者・管理者と職員によるヒアリングを随時行なっている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金を申請し、人事考課制度を設けて職員個々の努力を評価している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修マニュアルを作成し、法人の理念や認知症の理解について周知している。職員の意見を取り入れて内部研修計画を作成し、日常の業務に活かせる研修会を実施出来る様努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業の参加を通じ、合同研修会や他施設の行事に参加させて頂き、ボランティアさんの紹介や行事の企画に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の施設見学からご本人に直接お会いしてコミュニケーションを図り、関係作りに努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学時・契約時において、利用者を支える為にご家族とホームとしてのあり方について十分話し合いを行なっている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にはグループホームでのケアが必要か十分話し合い、必要に応じて他のサービス事業者を情報提供している</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームの名称にある「敬愛」の精神に基づき、人生の先輩を敬い、お互いに支え合う関係を築けるよう努めている</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時には日常の様子を理解して頂ける様積極的にコミュニケーションを取って利用者の生活が向上出来る様ご家族と情報交換を行なっている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族にもご協力頂きながら、友人宅への訪問や飲み会参加の支援や面会・電話連絡の支援に努めている</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>行事や日常生活において他ユニットに訪問して利用者同士の交流を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への転院等で退去された場合はお見舞いに行ったり、他界された場合はご自宅へ訪問し、ご家族と関係を築いている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録や連絡ノートで情報を把握して表出しやすい環境作りに努めているが、意思疎通困難な利用者様はミーティング等で利用者の立場になって考えて検討し思いを汲み取るように努めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様宅へ訪問し馴染みの暮らし方について把握し、ご家族にセンター方式を記入して頂いて生活歴を把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録で情報共有を行ないながら利用者様個々の生活パターンの把握に努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを実施し、ケアプラン更新前にはご家族に要望をお聞きしながら、各担当者と介護支援専門員による話し合いとミーティングにおいて他の職員からの意見を出し合いながら作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気になる事や気づいた事を記入し、継続が必要な場合はケアプランに反映し統一している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な病院受診や外出等ご家族と相談しながら柔軟に対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域ボランティアの依頼や行事の情報を得ている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前まで受診していた医療機関を希望される方には継続出来る様な支援を行い、協力医療機関との連携により24時間対応の医療体制である		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得し、看護職員を配置して主治医と連携をとりながら健康管理を行なっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族と共に管理者が同行し、入院先の医師や看護師に情報を提供。入院中も面会やご家族と連絡を取り合い情報収集を行ないながら早期退院に向けて話し合いを行なっている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成。看護職員による看取りの勉強会を開催し、看取りに対する職員の不安を軽減出来る様な話し合いも行なわれた		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成。事業所内において地域住民と合同で普通救命講習会を開催している		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加の避難訓練を年2回実施。搬送実務の効果測定を3ヶ月毎に実施している。スプリンクラーも設置しており、自動火災通報装置との連動で地域住民宅への登録も行なっている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時などは個人名で言わないよう配慮したり、言葉かけにもプライバシーに配慮している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた説明や声掛けを心がけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで生活してきた習慣を大切に、職員の押し付けとならない様支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の提供や洋服は自分で選んで頂けるよう支援している。女性の利用者様には化粧療法の実施を予定している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食生活支援マニュアルを作成。栄養のバランスに考慮しながら季節に合わせた献立作りや献立作成時に利用者様に希望を伺ったり、料理作成に関わって頂く事で食べる事に興味を持って頂けるよう支援している		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や看護師に相談しながら入居者に応じた食事量や水分摂取量を検討し、摂取しやすい様好みの物を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。嚥下体操を行い機能維持に努めたり、必要に応じて歯科受診や訪問歯科を勧めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にて排泄パターンを把握しながら声掛け・誘導を行ない、早期からオムツに頼ることのない様スタッフ間で十分話し合いながら検討している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や外出を増やす事で体を動かす機会を多くしたり、水分量や食事量の検討・乳製品摂取により下剤に頼らないよう努めている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、希望があれば毎日入れる様支援している。拒否が見られる利用者様の対応にはスタッフ間の情報共有をして出来るだけ入って頂ける様心がけている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様、日中の活動性を増やしたり、昼寝の習慣がある入居者は長時間とらない様配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援マニュアルを作成。薬剤情報提供書がいつでも確認出来るようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の特技にあわせ俳句や華道を披露するスペースの確保や、晩酌の支援により気分転換に繋がっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に合わせ近所のコンビニやスーパーへの買い物支援や外食を支援している。ご家族にも協力頂いて自宅への外泊やご家族との外食も積極的に勤めている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主にホームで金銭管理を行なっているが、ご家族と相談し買い物時は利用者様に合わせて少額の自己管理を行なって頂いている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により支援したり、状況に応じて利用者様にアプローチしている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢花を各所に設置しゆったりとした空間作りを心がけたり、利用者様手作りのカレンダーで季節を感じて頂ける様努めている。各居室には換気扇が備え付けられ空調にも配慮している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や施設内の各場所にベンチを設置しており、くつろげるスペースがある		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使用してきた家具を持ち込んで頂いたり、ご家族と相談しながら思い出の写真や仏壇を置いて安心できる居室作りを心がけている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰介護にならない様、利用者様の出来る事・出来ないことを職員間で十分話し合いながら対応している		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム らいふ敬愛

作成日：平成22年11月16日

市町村届出日：平成22年11月21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族からの希望を個別に伺う機会が少ない	ご家族が気軽に希望を言えるような環境を作る	面会簿の書式を見直し、気軽に希望を言える機会を増やす	3か月
2	35	地震対策について机上訓練のみで実地訓練を実施していない	地震についての実技訓練の機会を作る	勉強会において地震の実技訓練を実施する	6か月
3	12	新人研修マニュアルはあるが、新人職員の知識にバラつきが見られている	新人職員のための勉強会の実施	新人職員のための勉強会を開催、定期的に管理者やユニットリーダーと話し合う機会を設け定着に努める	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。